

(別紙 12)

大学「人材育成強化科目」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	気仙沼市役所
実習期間	令和 2年 2月 12日 ~ 令和 2年 2月 18日
学生氏名	吉田 昂平
実習プログラム	<p>実習時間：8時30分～17時15分</p> <ul style="list-style-type: none">・2月12日（水） 秘書広報課広報広聴係 9時30分～ 「広報気仙沼」の表紙撮影 11時30分～ 「広報気仙沼」の表紙編集。市のSNSのHP編集。 13時00分～ 2018, 19年の「広報気仙沼」を読んでみるのフィードバック 15時30分～ 広報の梱包業務・2月13日（木） 地域づくり推進課 9時30分～ 公営・仮設住宅のコミュニティセンター訪問 11時30分～ 市議会の傍聴 13時00分～ 日本語教室 15時00分～ 2020年オリンピックホヤボーヤの缶バッジ制作・2月14日（金） 移住・定住支援センター湊 9時30分～ 気仙沼小学校訪問 11時00分～ 移住・定住支援センター湊の概要説明 14時00分～ 「マチリク」のインターンシップの活動を見学 16時00分～ Uターンでの帰郷者を増やすための方法を討論・2月17日（月） 震災復興・企画課 9時00分～ 東陵高校2年の”地方創生“に関するアンケートの集計作業・2月18日（火） 商工課 9時00分～ サンマリン気仙沼ホテル観洋で“求評見本市”の従事

<p>学び・気づき (300字程度)</p>	<p>市が抱えている大きな課題が「人口減少」「産業の衰退」ということが分かった。気仙沼市は水産業が主体であるが、近年不漁が続いていることもあり経済状況が悪化している。そのため他の地域へと人材が流出してしまい、人口減少にも繋がってしまうという負のサイクルが引き起ってしまうことが分かった。</p> <p>人口減少を止めることが容易ではない。そこで、1人1人に気仙沼の良さを伝えていき情報発信することにより、気仙沼に在住している人やそうでない人も「住みたい!」「また来たい!」と思うようになり、そういった人々を増やしていくことが課題の解決のために重要だと感じた。</p>
<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>今回の市役所インターンシップを通して、今までは市民という一方の視点からでしか市の取り組みを見ることができなく、表面上の情報だけを得て、「もっと快適にもっと豊かにもっと頑張っているんなことをしてほしい」とばかり思っていたのだが、実際に市役所内の業務を体験・見学することで市が市民に対してもっと安全安心を提供するため、もっと快適に暮らせるように、1日でも早い復興・復旧するために、地域を活性化させるために、一生懸命最善を尽くしてくれていると感じた。なにか自分にもできることは些細でもあると思うので、できることには挑戦して役に立てる人材になりたい。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>気仙沼市は水産業の町で、海外から来る人も多いほうである。そこで外国人の方々により快適に暮らしてもらうように日本語教室などを開いて交流の場を設け、意見を交換したりする取り組みがとても良いと感じた。もちろん市内に住む人々の意見も大事ではあるが、他地域や他国から来ている人々の意見はより大切であり、参考になると感じた。</p> <p>求評見本市は全国の企業に対して気仙沼市のブランド品を拡大させていく活動で、気仙沼という町をより多くの人々に知ってもらう貴重な活動でとても興味深いと感じた。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	